

2014 年 2 月 3 日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 日比 保史

チュニジア国 ラデス・コンバインド・サイクル発電施設建設事業  
(協力準備調査(有償))  
ドラフトファイナルレポートに対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2014 年 1 月 24 日(金) 14:00～16:13
- ・場所：JICA 本部(111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：日比委員、松下委員、米田委員、石田委員(石田委員はメール審議にて参加)
- ・議題：チュニジア国 ラデス・コンバインド・サイクル発電施設建設事業ドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：
  - 1) チュニジア国 ラデス・コンバインド・サイクル発電施設建設事業ドラフトファイナルレポート
  - 2) 環境影響評価報告書(EIA)(和訳仮訳)
  - 3) スコーピング案に対する助言対応表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 44 回委員会)

- ・日時：2014 年 2 月 3 日(月) 14:30～15:41
- ・場所：JICA 本部(113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **スコーピング結果について**

1. 供用時の生態系への影響として、取水や排水の流量増加による海水動態の変化、排水に含まれる塩素の影響、及び生物付着を防ぐ塗料の使用の有無をファイナルレポートに記載すること。
2. Terrestrial Wildlife の項には、鳥類の nesting 以外で保護種が確認された記録の有無を記述すること。
3. 事業による気候変動への影響（温室効果ガス排出量）について、検討の上ファイナルレポートに記述すること。
4. 事業による温室効果ガスの排出削減効果の推計に当たっては、よりコンサーバティブなベースラインを採用した上で検討すること。

### **環境配慮（汚染対策、自然環境等）について**

5. 刺し網漁業に与える影響を含み海域特性を利用した（適応した）魚類の移動・分布を考慮したアセスメントを本来は行うべきものだと思われるが、様々な制約でその実施が難しいということも理解される。そのため、既往の研究や調査で魚類の生活史における移動・分布についての知見を集め、可能な範囲でファイナルレポートに記述すること。
6. 原料の海上輸送が事故に遭遇した場合の海域汚染とそのリスク管理について見通しおよび対策を記述すること。
7. 温排水の三次元的な動態と影響について、より詳細な説明をファイナルレポートに追加すること。
8. 環境管理計画の管理対象は、保護種リストの記載種全てとすること。

### **ステークホルダー協議・情報公開について**

9. 女性や社会的弱者の参加や計画に対して彼らの発言が担保され、また、彼らの発言や意見が計画に反映されている様子について、現在の DFR の記載内容から見いだすのが困難なため、追加情報（男女別の参加者数を含む）をファイナルレポートに記載すること。

以 上